



◆新年挨拶 病院長 新井 一成

明けましておめでとうございます。皆さまにとりまして佳き年でありますよう祈念いたします。

昭和大学江東豊洲病院は新築移転してからこの3月で丸3年になります。基本理念にまごころの医療、安全、安心の医療、地域と連携する医療そして医療人の育成を掲げ、さらに新たな医療文化の構築を目指した土・日曜日の週日化を標榜していますので、スタッフは勤務表の作成等々協力し合うことにより実践できるようになってきました。



昨年12月には念頭とする残り114床の増床のうち3床ではありますが増やすことが認められ、これを梃子にして8B病棟を開棟して全病棟オープン運びとなりました。次の飛躍を促す第一歩となると確信しております。これに満足せず増床の働きかけを弛みなく続けていく所存です。

区切りの3年から新たな3年を迎えるに当たり、全職員の心をひとつに、人員そして機器の充実を図り、地域と密接に連携する医療施設となれるように積極的に取り組んでいきたいと思っております。

自分たちは一生懸命やっていると思わず、地域や患者さんの要望はより高いところにあるはずであると思いつつ切磋琢磨していきます。



昭和大学江東豊洲病院

第33号のトピックス

- 新年挨拶 新井病院長
- 中学生職場体験について
看護部 中村次長
- こどもセンター クリスマス会
- 海外留学 タイ報告
心臓血管外科 中村助教

◆中学生職場体験について 看護部 中村 綾子

12月13日から3日間、江東区立有明中学校2年生の5名が職場体験学習のため、来院しました。このうち、最初の2日間は看護体験を行いました。初めて袖を通す白衣姿に、お互いちょっと恥ずかしそうでしたが、さっそく病棟へ。看護体験では、看護師の仕事の細かさや歩く距離の長さに驚いたとのことでした。また、バーコードの読み取りによる患者誤認防止対策など、様々な機器を利用しながら安全を守っていることも発見の一つだったようです。私たちにとって嬉しかったのは、看護師の様子について「患者さんの目線で話をしている」、「笑顔で丁寧に仕事をしていた」といった感想を伝えてくれたことでした。今回の職場体験が、中学生の皆さんの将来の進路選択のきっかけになれば何よりです。

職場体験学習 感想文 江東区立有明中学 2年生

今回は、貴重な体験をさせていただきありがとうございました。

1日目と2日目の看護体験では体ふきなどいつもならできないことをやり、3日目は薬ざいについてくわしく知ることができました。自分が知っている仕事の裏で働いてくださっている方々がいることで病院が成り立っていることを知り私も医療の仕事で人の役に立ちたいと思いました。(衣田 舞)



3日間という短い間でしたが、お世話になりました。1日目と2日目は、看護師さんの仕事を体験でき、将来について考えることができました。血圧などの測定では、患者さんと接するので、緊張しましたが、測ることができました。3日目はいろいろな器具・場所を見ることができ、嬉しかったです。貴重な体験をさせて頂き、ありがとうございました。(山下 采夏)

今回は、3日間お忙しい中ありがとうございました。

お仕事をしてみても、誰かのために何かをやることは、とても大変なことが分かりました。患者さんと話したりするのも、きんちょうしたけどいい経験になりました。

今回の職場体験を通して、将来の職業について考えていきたいと思いました。(植木 玲)

今回の職場体験では、普段めったに体験できないようなことがたくさんできました。看護師さんと患者さんの体拭きを手伝ったり、血圧を計りに行ったりして、疲れたけど楽しかったです。最終日は薬剤師の体験をさせてもら

ったり、機械の値段を教えてもらい、とても良い経験をさせていただき、本当にありがとうございました。
(村松 由記奈)

職場体験では、お世話になりました。

3日間という短い期間でしたがたくさんの事を知る事ができました。看護師の仕事がすごく大変という事、治療をする中で大切な機械を管理する臨床工学士の仕事。その他にもたくさんの仕事があるから患者さんが安心して治療ができるという事を改めて感じました。患者さんの事を考えられる医師に私もなりたいです。

(田谷野 安璃)

※感想文は生徒さんが書いた文章をそのまま掲載しました。

こどもセンターでクリスマス会を行いました。

スタッフも、この時はサンタ帽子やトナカイに扮して、体操やミュージックベルの演奏をして、子ども達を楽しませてくれました。中でも、得意な手品を披露してくれた医師のカードマジックは、立ち上がって近くまで見に行き、大盛り上がりでした。

保育士のペープサート劇も終わると、お待ちかねのサンタ登場！子ども達にプレゼントを届けてくれました。ニコニコと笑顔でプレゼントを受け取る子、驚いてママにしがみつく子と様々でした。

お楽しみのおやつでは、クリスマス用のケーキやゼリーを嬉しそうに食べ、和やかな雰囲気ですべて終了しました。



12月25日(日)午後3時より、当院1階タリーズ前にてクリスマスコンサートが開催されました。当日は良い天気恵まれ、入院患者(ご家族)さん、外来患者さん、近隣住民の観衆が見守る中、クリスマスメドレー等が演奏されました。観覧者のご意見をご紹介します。息子の手術日に偶然コンサートを聴き、心安まった。感謝！



◆ 海外留学「タイ報告No.1」 中村 裕昌

2016年4月より山口教授のご推挙をいただき、タイの胸部疾患センター（Chest Disease Institute of Nonthaburi : CCIT）での研修を開始しました。

CCITはバンコクの隣ノンタブリ県にあり、年間約1000例の開胸術を行っています。この病院には僧帽弁の形成術で有名なDr.Taweesakがおられ、僧帽弁形成術の割合がタイの他病院に比べて高くなっています。

日本では少なくなりましたがリウマチ性僧帽弁狭窄症の患者さんがまだタイでは多くいます。タイでも日本でもこの症例に対しては弁置換術を行うのが一般的ですが、Taweesak先生は弁形成術を行っています。狭窄症の形成術は逆流症のそれよりも複雑な手技が必要になります。月曜日から水曜日までは基本的にTaweesak先生の手術に入り形成術の手技について学んでいます。木金は他のstaffの手術に参加しています。現在、毎週6~10件の手術（胸部疾患含む）に入り、5月から10月までの6カ月間に約170件の手術に第1助手として参加しました。

ICU管理も行っています。週2~3回の当直ですが、ICU内でのルーティンがあり、多くの事を看護師さんがしてくれるため比較的落ち着いた状況で過ごすことができます。しかし言葉の壁は高く看護師さんの多くは英語が通じません。でするので、指さしなどのジェスチャーも駆使しながらコミュニケーションをとっています。



写真中央 中村助教



手術室の看護師さん

編集後記 長谷川 真

あけましておめでとうございます。2017年第一号の豊洲病院だよりができました。はやいもので通算33号目の発刊です。本年もどうぞよろしく願いいたします。改良を重ね、よりよい広報誌をめざしますので、今後とも皆様の御指導、御協力をよろしくお願いいたします。



昭和大学江東豊洲病院 <http://www.showa-u.ac.jp/SHKT/>

〒135-8577 東京都江東区豊洲5-1-38

TEL03-6204-6000（代表）

発行責任者：新井一成 編集責任者：長谷川真



Showa University Koto Toyosu Hospital